

家庭基礎における消費生活分野の指導について

中学校と比較して

〇〇〇立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇(家庭科)

1 はじめに

平成18年度の1年間、中学校との兼務となり、週に1日、中学1年生の授業を4時間担当した。初めは、“高校で教えている内容を少々簡単にして教えればよいのではないか”ぐらいの気持ちでいたが、実際に授業を実施してみると、対象が1年生ということもあり、高校生との3歳の年齢差は大きく、またさまざまな学力・個性の生徒で構成されていて、高校とは大きく様子が違うことが解った。

中学の授業でも消費生活分野を扱い、最近の自己破産などの問題の増加から、中学生のうちから消費者としての自覚を高める必要性を感じた。中学と高校の教科書の項目を比較し、消費生活分野の中で中学校での取り扱いのない項目を中心に、また取り扱いはあっても高校で学習を深める必要性の高いものを含めて、指導することを考えた。

2 研究計画

(1) 本校生徒の状況

(2) 指導内容の検討と計画

ア 中学校の学習指導計画

イ 第1学年技術・家庭科(家庭分野)「B 家族と家庭生活」指導計画

ウ 中学と高校の教科書による内容比較(消費生活分野)

エ 中学校の悪質商法の指導案

オ 単元の指導計画

(3) 指導実践と報告

ア ワークシート5 「ひとり暮らしの生活費」

イ ワークシート9 「金利と法律に強くなる」

ウ ワークシート10 「おいしい話にご用心」

(4) 学習後の意識調査と考察

ア アンケート調査とまとめ

イ 考察

3 研究内容

(1) 本校生徒の状況

本校は、平成14年に創立100周年を迎えた1学年6クラスの伝統ある普通科高校である。「日本さくらの名所100選」に選ばれている 公園と隣接し、学校全体が緑に囲まれている。卒業生、在校生ともに地元出身者が多く、地域に根ざした学校となっている。

平成16年度から男女共学の普通科高校となり、現在男子生徒は5割弱を占め、以前とはまた違った活気のある雰囲気となった。温和で真面目な生徒が多く、学校努力目標「文武両道」の言葉のとおり、部活動に学習に充実した楽しい高校生活を送っている。

進路状況は、進学78%、就職12%である。(平成18年度実績)

(2) 指導内容の検討と計画
ア 中学校の学習指導計画

第1学年 技術・家庭科(家庭分野)

「A 生活の自立と衣食住」(23時間扱い) 「B 家族と家庭生活」(12時間扱い)

月	時数	題材名と指導目標	学習内容
4	3	「わたしと家族や地域の人々」 B 私たちの家庭生活 ・家庭・家族の基本的な機能を知る。	・家庭・家族の基本的な機能を知り，家族関係をよりよくする方法を考える。
	2	B 家庭生活と地域 ・家庭生活と地域のかかわりについて考える。	・家庭生活が地域の人々のつながりで成り立っていることを知る。
5	4	「賢い消費者になろう」 B 商品の選択と購入 ・販売方法の特徴を知り，選択・購入・活用について自覚を高める。	・商品を手入手するための条件を知る。 ・販売方法・支払方法の特徴を知る。 ・消費者の権利と保護を知る。
	3	B 消費生活と環境 ・環境に配慮した消費生活を工夫する。	・生活のゴミを減らす。 ・環境に配慮した商品の選択条件を知る。
6	1	「自分らしく清潔に着よう」 A 衣服と社会生活との関わり ・衣服と社会生活の関わりを知る。 ・目的に応じた着用を工夫する。	・目的に応じた衣服の着用を工夫する。 ・衣服の社会生活上の役割を知る。
	1	A 個性を活かす着用と日常着の活用 ・個性を活かす着用の工夫をする。 ・衣服の計画的な活用の工夫をする。 ・目的に応じて日常着を適切に選択する。	・個性を活かす着用の工夫を考える。 ・衣服の計画的な活用を工夫する。 ・目的に応じて日常着を適切に選択する。
7	2	A 日常着の手入れと補修 ・衣服の適切な手入れや補修をする。 ・衣服材料や汚れの種類・度合いに応じた手入れや補修をする。	・衣服の適切な手入れや補修の必要性に気づく。 ・衣服材料や汚れの種類・度合いに応じた手入れや補修をする。
	7	・刺し子のふきん製作	・既習の学習内容を活かし，用具を正しく安全に使用して作品を仕上げる。
9	3	「快適に住もう」 A 住まいについて考えよう ・基本的な住居の機能を知る。 ・自分らしい部屋づくり	・住む地域の気候・風土の特徴を調べ，適した住まいがわかる。 ・間取り図と家族の例から，住まい方のプランを作成する。 ・自分の住まい方の課題を見つけ，工夫をする。
	2	A 健康で快適な室内環境を考えよう ・健康で快適な室内環境の整備を知る。 ・室内環境の調節方法を知る。 ・住まいの安全性について知る。 ・衛生的な室内設備の方法を知る。	・室内環境を調節する具体的方法を考える。 ・バリアフリーについて調べ，安全な住まいを考える。 ・汚れの種類，場所の材質，用剤を調べる。 ・用剤の安全な取り扱いを理解する。 ・環境に配慮した清掃方法を調べる。
10	1	「健康的な食の明日を考えよう」 A これからの私達と食生活 ・栄養素は食事から摂取することを知る。	・食事の果たす役割を考える。 ・健康と食事の関わりを理解する。
	4	・食事の必要性と役割を理解する。 A 栄養と健康 ・五大栄養素のはたらきを理解する。 ビデオ「おもしろコツコツ物語」	・自分の食生活を点検し，問題点を考える。 ・五大栄養素の種類・はたらきを理解する。 ・水のはたらきを理解する。

注) 4月から10月までと，10月から3月までの前後半で，技術分野と入れ替えする。

第2学年

「A 生活の自立と衣食住」(25時間扱い) 「B 家族と家庭生活」(10時間扱い)

月	時数	題材名と指導目標	学習内容
4	4	「健康的な食の明日を考えよう」 A 栄養と健康 ・中学生には栄養的に過不足のない食事が必要であることを理解する。 ・バランスのとれた食事を考える。 「食事にこだわろう」 A 食材にこだわる	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の栄養の特徴を理解する。 ・食品の栄養的特徴を理解する。 ・食品群別摂取量のめやすを理解する。
	3	・食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択する。 ・加工食品の表示を理解し、適切に選ぶ。	
5	2	・食品の適切な取り扱いをする。 ・調理用具を安全で衛生的に取り扱う。	<ul style="list-style-type: none"> ・品質を見分け、用途に応じて選択するための条件を理解する。 ・生鮮食品・加工食品を適切に選択する。 ・食品に応じた保存方法を理解する。 ・安全な調理器具の扱い方を理解する。 ・食品添加物の有用性を理解する。 ・食品の表示を理解する。
6	13	・中学生に必要な栄養をふまえ、日常食の献立を立てる。 ・野菜の調理上の性質を知り、調理する。	
7		・肉・魚の調理上の性質を知り、調理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を用いた料理ができる。 ・肉・魚を用いた料理ができる。 ・安全で能率的な調理の方法を理解する。 ・計画から後始末までを考えた調理方法を理解する。
9	3	「食の世界を広げよう」 A 食生活を自分の手で ・自分の食生活を見直し、より豊かな食生活を考える。	
10	1	「今日までの自分を知ろう」 B 中学生になるまで ・自分の成長と家族のかかわりを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の存在や家族の関わり方を知る。 ・幼児との交流に関心を持ち、幼児の生活における課題を見つける。 ・幼児との関わりを通して、自分自身を見つめ直す。
	9	「保育所や幼稚園へ行ってみよう」 B 家族や地域の人と関わって ・幼児との交流に関心を持ち、幼児の生活における課題を見つける。 ・幼児の心身の発達を考え、ふれあいや関わり方の工夫をする。	

注) 4月から10月までと、10月から3月までの前後半で、技術分野と入れ替えする。

第3学年

「A 生活の自立と衣食住」(7時間扱い) 「B 家族と家庭生活」(10.5時間扱い)

10.5	5	「幼児と遊ぼう」 B 幼児と遊び ・遊びの意義について考え、おもちゃの役割を理解する。 ・絵本の製作計画を立て、製作する。 ・幼児向きのおやつを考える。 B 幼児の成長と家庭や周囲の人々 ・子供が育つ環境としての家族の役割を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びの意義を考える。 ・対象児にあった絵本の内容を工夫し、作成する。 ・栄養バランスの良いおやつを工夫する。 ・家族や社会の役割を理解する。
	7	A 楽しく豊かに食べる ・郷土料理や行事食を調査し、日常生活が豊かになることを知る。 ・日常食や地域の食材を活かした調理を工夫する。 ・会食を計画し、実践する。	

注) 4月から3月まで技術分野と隔週で実施する。

第1 学年 技術・家庭科 (家庭分野) 指導言十面

1 「B 家族と家庭生活」(12時間扱い)

月	時数	月	時数	題材名と指導目標	学習問題・学習内容	評価の観点			
						関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
4	3	10	3	<p>わたしと家族や地域の人々1</p> <p>B(3)わたしたちの家庭生活</p> <p>○家庭や家族の基本的な機能を知り、家族関係をより良くする方法を考えることができる。</p>	<p>○家庭や家族は、私たちにとってどのようなはたらきを持っているのだろうか。</p> <p>・家庭や家族の基本的な機能を知る。</p>	<p>・自分の生活や事例をもとに家族の立場や役割を理解しようとしている。</p> <p>・家族の一員として自分にできることを実践しようとしている。</p>	<p>・地域の人々との関わり方や協力の仕方を工夫することができる。</p>	<p>・家族が協力し合うことの大切さがわかる。</p>	<p>・家族や家族の基本的な機能について理解している。</p>
2	2	2	2	<p>B(3)家庭生活と地域</p> <p>○家庭生活と地域との関わりについて考えることができる。(1-p86~87)</p>	<p>○自分や家庭生活が地域とどのような関わりがあるのだろうか。</p> <p>・家庭生活が地域の人々のつながりで成り立っていることを知る。</p>	<p>・家庭生活と地域の人々との関わりに関心を持っている。</p>	<p>・地域の人々との関わり方を活用して消費生活により良くする方法を自分なりに工夫することができる。</p>	<p>・家庭生活が地域の人々のつながりの中で成り立っていることがわかる。</p>	<p>・物資、サービスの適切な選択、購入がわかる。</p> <p>・消費者の権利と保護がわかる。</p>
4	4	4	4	<p>I(買)消費者になろう1</p> <p>B(4)商品の選択と購入</p> <p>○販売方法の特徴を知り、消費者としての物資やサービスの選択、購入および活用について自覚を高める。(1-p88~91)</p> <p>ビデオ「カー・知って買おう!」 ビデオ「ストリート・ザ・環境社」 陪(チラ)カ(リ)</p>	<p>○日常消費している物資やサービスの具体例と活用するときの注意点は何か。</p> <p>・生活に必要な商品(物資、サービス)を手ずるための条件を知る。</p> <p>・販売方法と支払い方法の特徴を知る。</p> <p>・消費を取り巻く問題例から消費者の権利と保護を知る。</p>	<p>・自分の家庭生活や消費のあり方について振り返り、それらに関心を持っている。</p> <p>・情報を収集・整理し、物資・サービスを適切に選択、購入しようとしている。</p>	<p>・収集、整理した情報を活用して消費生活により良くする方法を自分なりに工夫することができる。</p> <p>・情報の収集、整理を行うことができ、商品購入後のトラブルを解決するための、適切な行動を行うことができる。</p>	<p>・物資、サービスの適切な選択、購入がわかる。</p> <p>・消費者の権利と保護がわかる。</p>	
3	3	3	3	<p>B(4)消費生活と環境</p> <p>○環境に配慮した消費生活を工夫することができる。(1-p92~93)</p> <p>別「ソコユエー・ヒルズ」 ビデオ「エコカキガ」</p>	<p>○どのようなことが、環境に影響を与えるだろうか。</p> <p>・生活のゴミを減らすことを知る。</p> <p>・環境に配慮した商品の選択条件を知る。</p>	<p>・自分の生活と環境との関わりに関心を持ち、商品選択の条件を考えようとしている。</p>	<p>・ゴミを減らす暮らし方を工夫することができる。</p> <p>・環境に配慮した消費生活を考え工夫することができる。</p>	<p>・環境に配慮した物質の活用と廃棄ができる。</p>	<p>・消費生活を環境との関わりから比較検討することができる。</p>

ウ 中学と高校の教科書による内容比較（消費生活分野）

中学	高校
使用教科書 開隆堂 技術・家庭 家庭分野（実践編）	使用教科書 第一学習社 高等学校 家庭基礎
学習指導要領による目標 実践的・体験的な学習を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。	学習指導要領による目標 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
履修項目	履修項目
<p>6. 私たちの消費生活と環境</p> <p>生活に必要なもの</p> <p>1 どこから提供されるのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なものの流れ 物資とサービスの違い <p>2 なぜ値段がちがうのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格の成り立ち <p>商品の選択と購入</p> <p>1 選ぶときの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要性、値段、品質、保証 商品情報の入手手段 表示、マーク <p>2 販売方法と支払い方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売方法 <ul style="list-style-type: none"> 店舗販売と無店舗販売 支払方法 <ul style="list-style-type: none"> 前払い、現金払い、後払い <p>3 トラブルを解消しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生が会える消費者トラブル 悪質商法について <p>4 消費者を守るしくみを知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> クーリング・オフ制度 ジャドママーク 消費者基本法など 消費生活センターと国民生活センター 消費者の権利と責任 5つの権利と責任ある行動 	<p>3. 消費を考える</p> <p>私たちの暮らしと経済</p> <p>1 家庭経済のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭経済と国民経済の関係 消費者物価指数 <p>2 家庭の収入と支出</p> <ul style="list-style-type: none"> 収入・支出とバランス <p>3 家庭経済の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭経済のキャッシュレス化 家計管理の必要性 経済生活の設計 <hr/> <p>消費者の権利と責任</p> <p>1 私たちの暮らしと情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 流通経路と価格 店舗販売と無店舗販売 ネット販売によるトラブル <p>2 消費者の意思決定と責任</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者の5つの責任 消費者問題と自己責任 <p>3 消費者問題と消費者の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者の8つの権利 () 国民生活センターと消費生活センター 消費者保護に関する法律 <p>4 売買契約とクレジット</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約について 消費者信用（販売信用と消費者金融） 多重債務と自己破産 クレジットカードの割賦払いと一括払い 二者間契約と三者間契約 各種カードの特色 利息の計算 <p>5 契約トラブルとその対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題商法とその対策 () 特定商取引法（クーリング・オフ制度）について
<p>消費生活と環境</p> <p>1 環境への影響を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活を見直す 豊かで便利な生活と環境問題 <p>2 暮らし方を見直そう</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな容器の長所と短所 “3R”の実践 	<p>私たちの消費生活と環境</p> <p>1 循環型社会をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費行動と環境への影響 循環型社会 () 環境に関する法律 <p>2 環境にやさしい消費行動</p> <ul style="list-style-type: none"> グリーンコンシューマーについて

注) ()は中学での履修がない項目。()は履修はあるが、内容が簡単なもの。

エ 中学の悪質商法の指導案

対象学年 1年

指導項目 わたしたちの消費生活と環境(3/7)

指導内容 身近な消費者トラブルと解決方法

本時の目標

- ・購入トラブルや悪質商法の例から、消費者問題に関心をもつ。(関心・意欲)
- ・悪質商法の具体的な内容と断り方がわかる。(知識・理解)
- ・消費者トラブルの解決方法を知る。(知識・理解)

(支援 留意点・評価)

課程目標	時配	学習活動と内容	教師の支援及び評価	資料・用具
1. 消費者トラブルに気づく	5	1. 教科書の例から、中学生が 出会う消費者トラブルを知る。	ノートに記入できたか。 (点検)	教科書・ノート
2. 悪質商法の代表例がわかる	5	2. 4つの例を説明し、ノートに 記入する。 ・訪問販売 ・キャッチセールス ・ポイントセールス ・マルチまがい商法	名称と内容が一致しやすい ように、簡潔に説明する。 ノートに記入することが できたか。 (発表・点検)	
3. ビデオの映像を通して理解を深める	20	3. 悪質商法の内容(手口)を 確認する。 ビデオ視聴 『ストップ・ザ・悪徳商法』	・ビデオのあらすじを予告 することによって興味を 喚起し、理解を深めさせ る。	教材ビデオ
4. 悪質商法の断り方を実践できる	5	4. 消費者になってロールプレイング をし、断り方を考える。	セールスマン(教員)と消費者 (生徒)の配役で行う。 断る要領をつかめたか。 (実践)	
5. トラブルの解決方法がわかる	12	5. クーリング・オフ制度や、通信販 売のトラブル解決方法を理解 する。	教科書の資料を参照しな がら説明する。 ノートの「トラブルを解決する 制度や法律」に記入する。 (点検)	教科書・ノート
6. 本時のまとめをする	3	6. 悪質商法、クーリング・オフ制度 について確認する。	口頭での確認。	

考察

- ・悪質商法の種類が4種類であるが、他の商法と手口も知っておいたほうがよい。
- ・ロールプレイングは生徒が人前で演ずるのを恥ずかしがってしまい、何例もできない。断るイメージをつかむ、他の方法を考える必要がある。
- ・ビデオは実際に自分が勧誘されているような感覚で、もう少し身近に興味深く見られるものがあるとよい。
- ・断り方だけでなく、“どうしてひっかかってしまうのか”の心理面を考えられると、防止に効果的である。
- ・消費者トラブルという認識自体がない生徒も多いと思われる。身近な例(ゲームソフトの注文や電話情報サービスなど)によって、中学生にも関係ある問題であることを認識できた。悪質商法の種類・内容と、その断り方までを中心に指導した。

オ 単元の指導計画 - 中学校での指導を踏まえて -

初めの「暮らしと経済」の部分は、中学での履修がない項目である。家計の多くの支出項目を管理して収支のバランスを保つ大変さを理解し、一人暮らしのイメージをつかんでもらうよう計画を立てた。

「消費者の権利と責任」については、中学での履修状況がまちまちなので、悪質商法の種類と手口やクーリング・オフについて、詳しく学ぶ必要があると考えた。さらに、悪質商法にひっかかってしまう心理や、悪質業者のセールストークを考えてみることによって、被害の予防につながるようにした。

「消費者信用」については、これも中学での履修がなく、生徒の頭の中でイメージでとらえられていた“借金＝大変”を具体的な数字と法律で理解させ、自己破産の予防となるよう計画した。

中学では履修しない新しい項目も多いので、消費者としての自覚を持つ基点とするよう考えた。

指導事項	時配	目標	学習活動	具体的評価基準（評価方法）			
				関心・意欲 ・態度	思考・判断	技能 ・表現	知識・理解
私達の暮らしと経済	3	・家計の構造と管理について理解する。	・家計の収支とバランス、キャッシュ時代の家計管理等について理解する。 ・「ひとり暮らしの生活費」のワークを完成させる。	・「家庭の収支と経済設計」について記入し提出。（学習ノート）	・シミュレーション結果に対する感想や意見を、簡潔にまとめている。（ワーク5）		・可処分所得、キャッシュ化、カードローンなどの新しい用語を正しく理解している。（考査）
消費者の権利と責任	5	・中学での既習内容を確認し、悪質商法について学習を深める。	・価格の成り立ち、販売・支払方法、悪質商法、クーリング・オフ、消費生活センターについて復習する。	・意欲的に発言している。（発表）			・中学の学習内容を正確に理解している。（発表）
			・悪質商法、クーリング・オフについて詳しく知る。 ・「悪質商法について」のワークを完成させる。	・悪質商法について関心を持つ。（ビデオ視聴） ・「契約トラブルとその対策」について記入し提出。（学習ノート）	・被害にあう要因と、被害を防ぐための対処法を考える。（ワーク9）	・自分らしく、工夫された内容が記入されている。（ワーク9）	・最近の主な消費者問題を把握している。（考査）
		・消費者信用について理解する。	・契約、消費者信用、自己破産、三者間契約等について理解し、利用に際しての心構えを知る。 ・「金利と法律について」のワークを完成させる。	・「売買契約とクレジット」について記入し提出。（学習ノート）	・感想や意見を、簡潔にまとめている。（ワーク10）		・クレジットカードのしくみを理解している。（考査） ・自己破産への経緯と結果を理解している。（考査） ・借金の金利について理解している。（ワーク10）

(3) 指導実践と報告

ア ワークシート5 「ひとり暮らしの生活費」 収支の合った楽しい生活

対象学年 1年

指導項目

私たちの暮らしと経済(2/3)

指導内容

ワーク

「ひとり暮らしの生活費」

授業の目的

- ひとり暮らしの社会人、学生がどれくらいの収入と支出で暮らしているかを知り、支出の各費目とおよその金額を知る。
- 限られた収入をうまく配分し、予算内で楽しく生活する感覚をつかむ。

ワーク5
ひとり暮らしの生活費
収支のあった楽しい生活

ひとり暮らしの経済生活は、自分の収入に見合った収支の合う生活であることが原則です。自分の将来を見通しながら、限られた収入を上手に配分して最大の満足を得られるようにしましょう。

その1 あなたの金銭管理能力チェック

- 自分の収入(月給、世帯月、手取り額)がわかる。 Yes・No
- 毎月の支出を把握している。 Yes・No
- 広告や情報を探して良い買い物ができる。 Yes・No
- 趣味のために1日に数時間の趣味活動の時間を取っている。 Yes・No
- 夢の実現のために毎月貯蓄をしている。 Yes・No
- クレジットカードが複数あり、デビットカードを持っている。 Yes・No
- 緊急事態に備えてお金を準備している。 Yes・No
- お金の増やし方、貯蓄方法を考えようとしている。 Yes・No
- 自分自身の将来の進路(学、就職希望など)がわかる。 Yes・No
- 日本や世界の経済の動向に関心を持っている。 Yes・No

その2 学生はいくらで暮らしているか

収入	支出
月給	月給
アルバイト	アルバイト
奨学金	奨学金
家族からの収入	家族からの収入
その他	その他
合計	合計

その3 社会人はいくらで暮らしているか

収入	支出
月給	月給
ボーナス	ボーナス
家族からの収入	家族からの収入
その他	その他
合計	合計

その4 Let's try 収支の合った楽しい生活

毎日の消費生活や年間を視した消費生活から、自分の収入に見合った範囲の支出を配分し、収支の合うように予算を立ててみよう。

収入 支出

収入の内訳
 ① 月給
 ② アルバイト
 ③ 奨学金
 ④ 家族からの収入
 ⑤ その他

支出の内訳
 ① 食費
 ② 住居費
 ③ 交通費
 ④ 娯楽費
 ⑤ 雑費
 ⑥ 貯蓄
 ⑦ 返済
 ⑧ その他

収支の差
 収入 - 支出 = 収支の差

収支の差がプラスの場合は、収入が支出を上回っています。収支の差がマイナスの場合は、収入が支出を下回っています。

過程	時配	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	5分	本時の学習内容の確認	ワーク「ひとり暮らしの生活費」の取り組むことを知る。	・学習の目的を伝える。 ・ワーク、資料の配布。	・教科書、ファイルの準備ができているか。(関心・意欲・態度)
展開	42分	・事前チェック ・作業の確認 ・各自のシミュレーション	・「金銭管理能力チェック」を行ってみる。 ・学生が18歳社会人のどちらかを選択する。 ・資料の内容と見方、記入箇所を確認する。 ・収入と支出の記入および調整。	・现阶段では、半数の回答が「Yes」なら良いことを伝える。 ・自分の高校卒業後の進路を選択させる。 ・学生と社会人、それぞれの資料の見方を説明をする。(給与明細の見方を含む) ・質問を受ける。 ・必要不可欠な費用と融通の利く費用、削りたくない費用(こだわり)を考えさせる。 ・預金に少額でも入れる、クレジットは月収の15%以内にする、A = B + C + D(らん外)になるようにすることを伝える。	・各自の金銭管理能力について考える。(関心・意欲・態度) ・意欲的に取り組んでいるか。(関心・意欲・態度) ・収入の配分が、無理なく工夫されているか。(思考・判断)
まとめ	3分	本時のまとめ・次回の予告	・次回はワークを完成させ、「感想」や「今後の経済生活の展望」を記入して提出することを知らせる。	・時間がかかりそうな生徒は、宿題とすることを伝える。	

A (合計) = B (消費支出) + C (非消費支出) + D (実支出以外の支出)

金利についての感想

- ・ 利率20%以上で借りようとする人が理解できない。
- ・ 預けた金の金利を「トゴ」にして欲しい。「逆ヤミ金」

初めて知ったことや気がついたこと・感想

- ・ グレーゾーンに入っている会社があるのが良くない。法律をもっと厳しくすれば良いのに。
- ・ 大人になったらカードを使おうと思っていたが、安易に利用してはいけない。大変なことになる。預金をして、借金をしなくて良いようにしたい。ヤミ金には絶対に関わらない。
- ・ テレビで見たことはあったが、こんなに苦しいものとは思わなかった。ヤミ金業者と弁護士が手を組むなんてもう人じゃない。借金はしません。

授業の考察

返済の大変さと借りる際の十分な検討が必要なことを、認識させることができた。ヤミ金のとりたてに関する資料があれば、より一層の理解をはかれた。

ウ ワークシート10 「おいしい話にご用心」きっぱりはっきり断ろう

授業の目的

このワークの目的は、悪質商法にだまされる心理を考えること、勧誘された場合の断り方をイラストや文字で考えること、自分が悪質業者になったとして、販売方法やセールストークを考えてみる(逆の立場になってみる)ことによって、被害にあう要因や防ぐポイントを多方面から考えることである。

指導内容

中学の時よりも、生徒の感覚に合った解りやすい悪質商法のビデオを見た後なので、その様子を参考にして、だまされてしまう心理

や悪質業者のセールス方法を考えてみることで、又、中学ではロールプレイングを行ったが、今回はワーク上で自分がきっぱりと断る方法を考えることを伝える。

生徒の様子と感想

イラストが得意な生徒は、断る方法を絵で思い思いに表現していた。“全然効かない「瘦身健康食品」を売りつける悪質業者になってみよう”では、男子「あなたは太ってる太ってる太ってるって言い続けられればいいじゃないか。」女子「そんなことしたらたたかれておわりだよ。」など、ワークに取り組みながらの会話もみられ、どんな人がどんな対象にセールスするかによって表現が違ってくことも発見したようである。

悪質商法全体の感想

- ・ 中学よりも細かく内容を掘り下げやっただので良く解った。(クーリングオフの対処法)復習・確認できた。ためになった。
- ・ 悪質商法は人の気持ちを考えないで平気でだますとてもひどいこと。悪質商法について関心を持つことが大切。
- ・ ビデオで商法が詳しくわかった。あの状況では買ってしまおうと思った。勉強しなかったらひっかかっていた。
- ・ だます人も悪いけど、買う人も気をつける。契約は詳しいことまで確認してから。被害にあう人はすきがあったりたるんでいる人、弱みのある人。

授業の考察

悪質商法については中学で履修済みのはずであるが、一通り学習したという生徒から「記憶がない」「良く覚えていない」生徒までまちまちで、学習指導の難しさを感じた。生徒は被害にあう要因(その人の性格、その時の状況)を考えることができ、又、被害を防ぐためには、“怪しい”と気づくアンテナを持つこと、最初が肝心なので、すぐにはっきり断ることを再認識できた。

ワーク10
おいしい話にご用心
きっぱりはっきり断ろう

その1 最近、こんな商法が増えています。あなたは出会ったことがありますか？

その2 イラストが得意できっぱり断ってみよう。

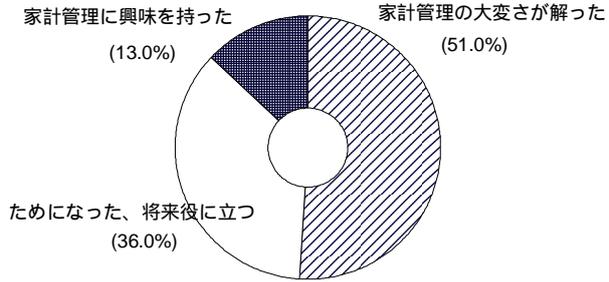
その3 全然効かない「瘦身健康食品」を売りつける悪質業者になりきって、販売方法やセールストークを考えてみよう。

その4 悪質業者とその客(被害者)になって、ロールプレイングしてみよう。

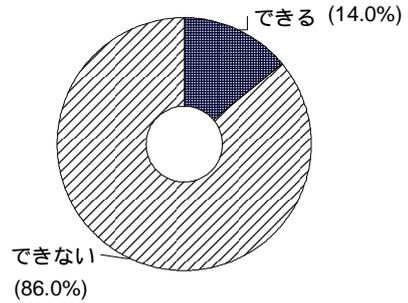
(4) 学習後の意識調査とまとめ

アンケート調査：1年生 名(男子 名, 女子 名)対象, 19年9月実施

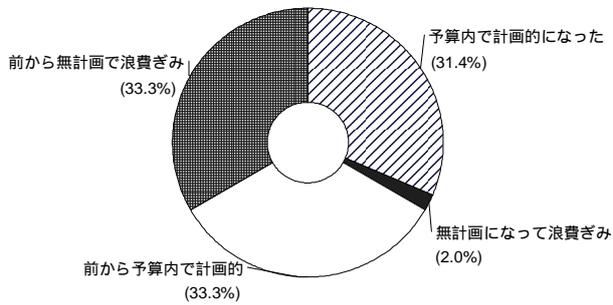
「一人暮らしの生活費」の感想



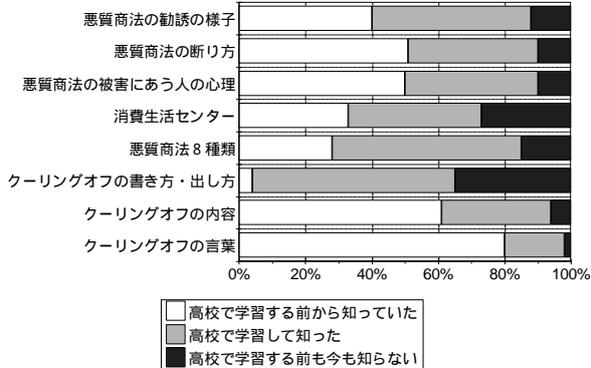
一人暮らしの自信



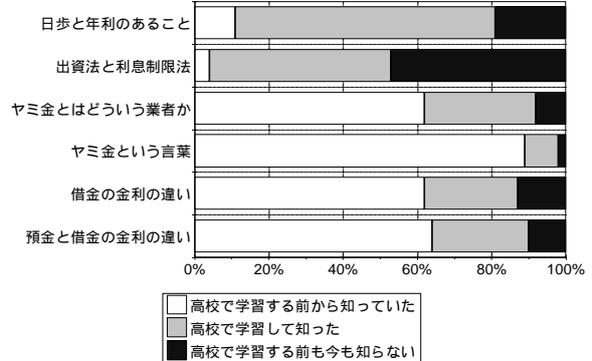
小遣いの管理について



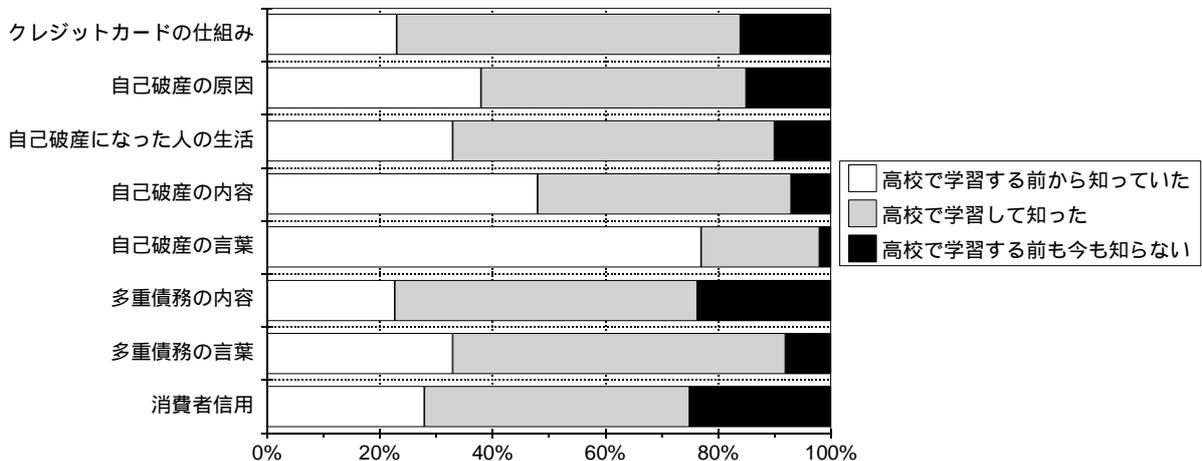
悪質商法について



金利と法律について



多重債務・自己破産・カードの使用について



アンケートのまとめ

アンケート調査については実施が9月になってしまったので、時間があいてしまい、高校での学習の記憶が不鮮明になってしまった生徒もいると思われる。(出資法と利息制限法についてやクーリングオフの書き方・出し方について、“今も知らない”生徒が3～4割いる)しかし、“高校で学習する前から知っていた”と“高校で学習して知った”を合わせると、おおむね70%を超える生徒が各項目を理解したと考えられる。又、知識として得ただけでなく、現在の生活に生かすことができた。「小遣いの管理について」の調査で、“予算内で計画的に使えるようになった”生徒が30%おり、“前から予算内で計画的”に使っていた生徒34%と合わせると、64%の生徒が小遣いを管理できている。

高校で学習する以前の様子ではっきりしている点を挙げてみると、クーリングオフについて6割以上の生徒が内容を知っていたが、書き方や出し方まで知っていた生徒は1割に満たない。預金や借金の金利について6割以上の生徒が違いを知っていたが、日歩と年利の違いや金利に関する法律まで知っていた生徒は1割弱である。自己破産について約5割の生徒が内容を知っていたが、多重債務について内容を知っていた生徒は2割弱である。

イ 考察

中学校での学習は、周囲の人とのかかわりを大切に、身近な問題に関心を持ち、解決してゆくための学習である。中学校の単元の中でも保育、家庭生活、食生活分野を中心として、“周囲の人びと”“地域”“交流”といった言葉が項目の中に多く登場する。「気づかせること」「関心を持たせること」は、知識を得ることや理解をさせることとはまた別の指導上の工夫が必要である。

今回中学校で授業をしたことによって、中学の学習内容が解っただけでなく、生徒を活躍させる授業展開や、内容を絞って1時間で完結させる授業のまとめ方など、中学の授業の特長を感じ取れたことは収穫であった。特に高校1年生の始めにおいては、この中学の授業の雰囲気や念頭において授業を進めれば、新入生も抵抗がないと思った。

一方高校での学習は、興味・関心に加えて、間近に迫る将来の生活に備えた、知識や実践力を身につけるための学習である。(消費生活分野では、家計の管理、クレジットカードの使用、キャッシング(借金)、自己破産の注意など)

アンケート結果からも解るように、クーリングオフの具体的な方法や金利に関する法律、日歩や年利、多重債務の内容やクレジットカードの仕組みなどは、中学までの学習では知らない生徒がほとんどであったが、今回学習したことによって知識を得て、高校生なりの消費者としての自覚を深めることができたと思う。ただし、知識中心の授業に偏らないよう、ワークやシュミレーション、実習を多く取り入れ、擬似体験を積み重ねながら知識を補う形にすることが、実生活を体験していない生徒達には大切なことである。

4 おわりに

高校では、19年度から家庭基礎の履修単位が3単位から2単位へと縮小された。時間短縮のためにも、各分野を融合させた授業展開がさらに必要とされる。そして今回のワークのように、テーマを絞った学習はやはり生徒の印象にも残り、身につくものだと感じられたので、“広く浅く”よりは“狭く深く”に思い切って切り替えることを考えている。

今回学習した内容のように、今すぐ生活にかかわってくるものでないもの(将来のために学習するもの)ほど、忘れてしまいやすく繰り返し認識しておく必要がある。発達段階に合わせ、形や角度を変えて、家庭科の授業の中で何度もなげかけていく必要があると感じた。

最後になりましたが、2年間指導して下さった先生方、ありがとうございました。

参考文献

「これであなたもひとりだち」 金融広報中央委員会
高等学校学習指導要領解説 家庭編
高等学校家庭基礎 第一学習社、家庭基礎学習ノート 第一学習社
技術・家庭 家庭分野 開隆堂、技術・家庭ノート 家庭分野 正進社